

福祉事業所等との連携の窓口として

実践の取組内容

福祉事業所等との窓口として

個別支援会議（モニタリング・サービス担当者会議）

- ・福祉サービスの制度における位置づけ・目的等の自校教職員への説明
- ・相談支援事業所（相談支援専門員）と対象児童生徒の担任との日程調整
- ・対象児童生徒の担任とともに会議に同席

保育所等訪問支援事業（こども発達支援センター）

- ・福祉サービスの制度における位置づけ・目的等の自校教職員への説明
- ・訪問支援事業担当者与各学部長・担任等との日程調整
- ・対象児童生徒の担任とともに事後のカンファレンスに同席

実践の成果と課題

個別支援会議（モニタリング・サービス担当者会議）

〈成果〉

- ・家庭や各事業所での児童生徒の様子や療育等への取り組みの様子について知ることができた。

〈課題〉

- ・開催日・時間・開催場所の調整
- ・会の位置づけ・目的等についての関係者への周知
- ・情報の取り扱い

保育所等訪問支援事業（こども発達支援センター）

〈成果〉

- ・言語聴覚士等の専門職からみた対象児童生徒の見立てや支援についての助言を得ることができた。教員（特に担任）の研修の機会となっている。

〈課題〉

- ・対象児童生徒が複数いる場合の日程調整
- ・助言内容の担任外の教員への伝達

実践のなかで学んだと思うこと

- ・福祉サービスに関すること
福祉に関する法、サービスの種類、システム、手続きの方法利用に関する状況
- ・各事業所に関すること
事業所での過ごし方、療育の課題や取り組みの様子
- ・児童生徒の一日の過ごし方、その様子
各児童生徒の事業所での様子、その後の家庭での様子
- ・児童生徒の学校での支援のあり方、方向性
言語聴覚士等の専門的な立場からの助言

今後に向けて

- ・各関係者にとって児童生徒理解のための情報共有のよい機会
- ・より良い連携のためには、まず、学校や関係機関それぞれがお互いの業務の内容を正しく知ることが大切。そのための顔合わせや研修の機会が必要
- ・関係者（保護者・事業所・学校・その他関係機関）に負担になり過ぎない内容での開催
- ・お互いの立場を尊重し、得た情報からそれぞれの立場や専門性で、どのような支援ができるのかを考え、共有

地域支援づくりへの提案

- ・各事業所等の担当者と、各園・小中学校のコーディネーターや学校生活支援教員が、顔と事業内容がわかる関係
- ・関係者が、オープンスクールや行事での学校園見学、また学校の長期休業時期などを利用した福祉事業所の見学など、相互に直接見学する機会
- ・学校園すべての教員が福祉の地域支援事業等について知り、効果的な連携方法等を考えることができるような機会